

# 彩り際立つ フロンティア

世界地図を日本から西に目を向けると、そこには広大なユーラシア大陸が広がる。世界の陸地面積のほぼ4割弱を占めるこの大陸の内陸部には若い国々が多い。異国情緒にあふれる多様な内陸アジアのこれらの国は、今後の発展が期待されるフロンティア(新天地)として注目を集めている。

文●松井 健太郎

## 内陸アジア



1 東アジア  
1 モンゴル

Mongolia

【モンゴル国】

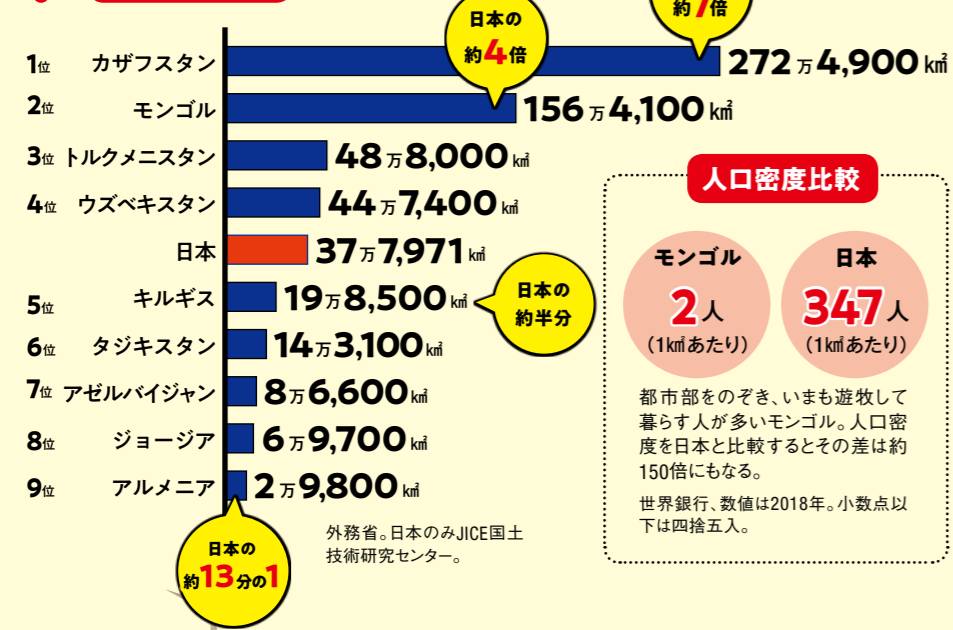
- 人口：329万6,866人
- 一人当たりGNI：3,790ドル
- おもな言語：モンゴル語、カザフ語
- おもな宗教：チベット仏教等
- おもな産業：資源(銅・石炭)、農牧業

©Maykova Galina/Shutterstock.com  
モンゴル帝国を建国したチンギス・ハーンは今も同国の英雄だ。

氷点下が生む、熱い絆！  
かつて地球上の陸地の約4分の1を領土として栄えたモンゴル帝国(1206-1634年)の流れをくむ。現在の首都ウランバートルは、冬はマイナス30度を下回るほどの酷寒の地域で、そのため日本の中でも北海道の自治体や企業が持つ寒冷地技術に対する需要が高い。都市開発や住宅、建設、農業など、寒冷地技術の分野で経済交流が盛んになっている。

1 モンゴル  
首都：ウランバートル

●日本より大きい？ 小さい？  
内陸アジア諸国の面積  
同域内での順位



【p.04~07の国データ】

- 人口、おもな言語、おもな宗教：外務省。
- 一人当たりGNI(国民総所得)：世界銀行。数値は2019年(トルクメニスタンは2018年)。
- おもな産業：JICA

人口密度比較

モンゴル 2人 (1kmあたり)  
日本 347人 (1kmあたり)

都市部をのぞき、いまも遊牧して暮らす人が多いモンゴル。人口密度を日本と比較するとその差は約150倍にもなる。世界銀行、数値は2018年。小数点以下は四捨五入。

### 親日派が多いのは戦争とアニメの影響から

内陸アジアには親日派の人が多い。理由を探ると第2次世界大戦にたどり着く。敗戦後、ソ連の捕虜となった日本兵は中央アジアに移送され、強制労働に従事した。ウズベキスタンでは首都タシケントのナボイ劇場を彼らに抑留された日本人たちが建設したが、その働きぶりは街の人たちが目を見張るものだったという。毎日規則正しく、懸命に働くその姿に感動すら覚えたタシケントの人々は日本人と親しくなり、ときには食べ物や差し入れ、そのお礼に日本人は乳母車を手作りするなど温かい交流が生まれた。日本に帰国できずに現地で亡くなった捕虜の墓を立てて守る人も現れた。

そのタシケントで1966年

「たとえば銀行ですが」と話すのはJICA東・中央アジア部次長の田邊秀樹さんだ。「私たちは、銀行は預金を集め、企業や個人に貸し出し、利息を得て収益を上げることが仕事だと知っています。ですが、ソ連時代の中央計画経済のもとでは銀行は預金を集めず、モスクワの中央銀行から地方の農業銀行などにお金を届け、農場などに分配することが仕事。民間企業のように利潤を得て発展していこうという考え方はありませんでした。それはいわば国民全員が公務員だったからです」

このように銀行ひとつとってもそのあり方はまったく異なるのだ。そこで日本は、独立した国々の要望に応え、民間企業によるビジネ

スを通じて品物やサービスの売り買いが自由に行われる市場経済に移行できるような後押しを長年担ってきた。

生活習慣や文化を見てみよう。モンゴルといえば、広大な草原を馬に乗って駆け回る遊牧民を思い浮かべるが、中央アジアのカザフスタン、キルギス、トルクメニスタンの人々もまた遊牧民として暮らしていた。山羊や羊を飼って乳を飲み、肉やその加工品を食べ、毛皮から衣服や住居をつくるという暮らしが代々続いていた。しかしソ連時代に、定住して農業を行うことを強いられる。「今や中央アジアに完全な遊牧民はいません。ふだんは都市住民や農耕民の生活を送りつつ、夏に遊牧的な休暇を過ごすというスタイルを楽しんでいるようです」

また、中央アジア5か国はすべてイスラム教の国々だが、その信仰はソ連時代の72年間、ほぼ3代にわたって禁じられていた。「その時代に育った年配の世代には、お酒を飲んだりする人や、断食をしない人もたくさんいます。しかし、独立後30年がたつ間に先祖の信仰が復活し、イスラム教に純粋な関心を寄せる若者が増えた結果、そんな年配者が自分の子どもからたしなめられる場面も見られます」と、田邊さんは中央アジアの今の姿を語った。

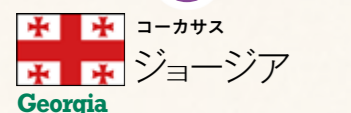
に大地震が発生。街が壊滅状態になる中、ナボイ劇場だけはびくともしなかったことも日本人を称える逸話として語り継がれている。

親日国が多い理由はもう一つある。内陸アジアは周囲の大国から少なからず影響を受け、自国を守ってきた歴史があるが、中立的な立場であった日本に対しては好意的な感情を抱いているという。そんな日本に期待されるのは、内陸アジアに関わる大国間のバランスを取る役割で、日本も経済やビジネスの協力や文化的な交流を深めることで、その役割を担おうとしている。

独立以前からすでに日本の電化製品が人気を呼び、現在は漫画やアニメなどクールジャパンの効果で日本語の学習熱も盛んになり、日本に旅行や留学をしたいと望む若者が増えている。

ヨーロッパとアジアの懸け橋の位置にある中央アジアやコーカサス地域は、異国情緒あふれる街並みや文化が独特の雰囲気醸成し、この地域ならではの旅情を味わわせてくれる。「この地域に暮らす日本人はまだ多くはないものの、現地の人とはとてもフレンドリーで一度訪れればぜひまた行きたいと思う国ばかりです」と田邊さんは話す。観て楽しい、食べて楽しい、ふれて楽しい内陸アジアに、私たちももっと目を向けてみよう。

8



コーカサス  
ジョージア  
Georgia  
【ジョージア】

- 人口: 390万人
- 一人当たりGNI: 4,780ドル
- おもな言語: 公用語はジョージア語
- おもな宗教: キリスト教 (ジョージア正教)
- おもな産業: 農業、食品加工、観光



©Carrot Spy/Shutterstock.com  
シュケメルリ。日本国内の牛丼チェーンでも期間限定で提供されるなど話題になった。

**歴史あるワイン発祥の地**

数年前まで日本ではロシア語読みでグルジアと呼ばれていたが、今は英語読みでジョージア。栽培されるブドウの品種は500以上。「ワイン発祥の地」といわれるジョージアワインの歴史は約8,000年前にさかのぼる。鶏肉をニンニクとクリームで煮込んだ伝統料理シュケメルリとともにワインを堪能したい。ロシアから観光に訪れる人も多く、観光業がGDPの約5分の1を占める観光立国でもある。

7



コーカサス  
アゼルバイジャン  
Republic of Azerbaijan  
【アゼルバイジャン共和国】

- 人口: 1,000万人
- 一人当たりGNI: 4,480ドル
- おもな言語: 公用語はアゼルバイジャン語
- おもな宗教: イスラム教シーア派
- おもな産業: 資源 (石油・天然ガス)



バクーに建つ炎をモチーフにした高層建築のフレイムタワー。夜はライトアップされ街を彩る。

**かつて世界最大だったバクー油田**

中東に油田が発見される前、1910年ごろのバクー油田は世界の90パーセントの産出量を誇り、世界で初めて石油産業が成立した国といわれている。カスピ海沖の油田をはじめ、豊富な石油資源があったことでソ連からの独立後もスムーズに市場経済に移行でき、2000年代には急激な経済発展から「第二のドバイ」ともいわれた。首都のバクーにはイスラム建築とモダンな現代建築が共存している。

9



コーカサス  
アルメニア  
Republic of Armenia  
【アルメニア共和国】

- 人口: 290万人
- 一人当たりGNI: 4,680ドル
- おもな言語: 公用語はアルメニア語
- おもな宗教: キリスト教 (東方諸教会系のアルメニア教会)
- おもな産業: 農業、宝石加工



©Sagittarius Production/Shutterstock.com

**ノア方舟が漂着したとされる国**

世界最古といわれるエチミアジン大聖堂。ユネスコの世界文化遺産にも登録されている。

世界最古のキリスト教国。旧約聖書に記されている「ノア方舟(はこぶね)」の物語では、神の指示に従ってノアが木で方舟を造り、家族と世界中の動物のつがいに乗せて大洪水の中を漂流するが、その方舟が流れ着いたのが古代アルメニア地域にあるアララト山とされている。1998年のスピタク地震の際には日本は国際緊急援助隊を派遣し、それ以来、防災分野の協力も続いている。

6



中央アジア  
タジキスタン  
Republic of Tajikistan  
【タジキスタン共和国】

- 人口: 930万人
- 一人当たりGNI: 1,030ドル
- おもな言語: 公用語はタジク語、ロシア語も広く通用
- おもな宗教: イスラム教スンニ派
- おもな産業: 農業、アルミニウム、水力発電、出稼ぎ



©Maximum Exposure PR/Shutterstock.com

**「世界の屋根」を望む山岳国**

パミール高原はタジキスタン、キルギス、中国、アフガニスタンなどにまたがる。

総面積の9割以上が高地で、4割以上の面積に「世界の屋根」と呼ばれるパミール高原が広がる世界一の山岳国。5,000メートル級の山々が連なり豊かな自然に恵まれている。ソ連からの独立後1992年から97年まで内戦が続き、内陸アジアの中では経済発展に最も遅れてしまった。ソ連時代から綿花の栽培と豊富な水力資源を生かしたアルミニウム産業が盛ん。

5



中央アジア  
トルクメニスタン  
Turkmenistan  
【トルクメニスタン】

- 人口: 590万人
- 一人当たりGNI: 6,740ドル
- おもな言語: 公用語はトルクメン語、ロシア語も広く通用
- おもな宗教: イスラム教スンニ派
- おもな産業: 資源 (石油・天然ガス)、農業、牧畜



砂漠の大地に巨大な穴が空き天然ガスが燃え続ける「地獄の門」。

**名馬アハルテケを生んだ国**

アハルテケは約3,000年前に飼育され始めたトルクメニスタン原産の馬の品種で、現存する最古の馬種の一つと考えられている。今は世界で3,500頭ほどしか飼育されていない貴重な馬で、「黄金の馬」と呼ばれるように光沢のある美しい毛をなびかせて走る。勇敢な立ち姿はトルクメニスタンの国章にもデザインされている。国土の大部分が砂漠で、天然ガスの埋蔵量は世界の約1割を占める。

3



中央アジア  
ウズベキスタン  
Republic of Uzbekistan  
【ウズベキスタン共和国】

- 人口: 3,280万人
- 一人当たりGNI: 1,800ドル
- おもな言語: 国家語はウズベク語、ロシア語も広く通用
- おもな宗教: イスラム教スンニ派
- おもな産業: 農業、資源 (石油・天然ガス)、出稼ぎ



©Alexandru Nika/Shutterstock.com

**サマルカンドブルーに魅了される**

シルクロードの要衝として栄えた都市、サマルカンド。サマルは“人々が出会う”、カンドは“町”を意味するように、世界中の交易商人が行き交った。青を基調としたタイル張りの建物は「サマルカンドブルー」と呼ばれ、観光客の目を奪う。前田敦子主演の映画「旅のおわり世界のはじまり」のロケ地となった。

4



中央アジア  
キルギス  
Kyrgyz Republic  
【キルギス共和国】

- 人口: 620万人
- 一人当たりGNI: 1,240ドル
- おもな言語: 国語はキルギス語、公用語はロシア語
- おもな宗教: イスラム教スンニ派
- おもな産業: 牧業、資源 (金)、出稼ぎ



©Thiago B Trevisan/Shutterstock.com

**神秘漂う中央アジアのスイス**

キルギス人と日本人は顔がそっくりで、大昔は兄弟であったという伝説が同国にあるほどだ。日本語や日本のアニメの人気も高い親日国。三蔵法師も越えたとされる天山山脈、透明度の高いイシククル湖等の圧倒的な自然、春にはチューリップ、夏にはエーデルワイスの咲く風景が見られることから「中央アジアのスイス」とも呼ばれる。遊牧文化の詰まった羊毛フェルトグッズはお土産にぴったり(p.20)。

アルメニア  
首都: エレバン

ジョージア  
首都: トビリシ

トルクメニスタン  
首都: アシガバット

アゼルバイジャン  
首都: バクー

ウズベキスタン  
首都: タシケント

キルギス  
首都: ビシュケク

タジキスタン  
首都: ドウシャンベ

カザフスタン  
首都: ナルスルタン

**「スタン」の意味は?**

中央アジアの国名につく「スタン」は、ペルシア語に由来し「〜の土地」という意味をもつ。たとえば、ウズベキスタンならウズベク民族の土地、タジキスタンならタジク民族の土地ということを表している。キルギスもかつての国名はキルギスタンで、1993年に現国名に改名した。

**現地の行政官には日本通も多い**

**人材育成奨学計画 (JDS) の受け入れ実績 (2000~19年度)**



JICAは、各国で将来指導者層となることが期待される若手行政官等に日本の大学で学んでもらう取り組みを実施している(人材育成奨学計画: 略称JDS)。2000年の第1期生は、ウズベキスタンからの20名で、それ以来キルギスやタジキスタンからも留学生が訪れている。日本をよく知る人たちが国の中枢で活躍し、そのなかからキルギスの元法務大臣やタジキスタンの現労働大臣など閣僚も誕生しており、日本とよりよい関係が築かれようとしている。



**観光の穴場的スポット**

**国際観光客到着数 (2018年)**

モンゴル	52万9,000人
カザフスタン	878万9,000人
ウズベキスタン	534万6,000人
タジキスタン	103万5,000人
キルギス	42万3,000人
トルクメニスタン	—
ジョージア	475万7,000人
アゼルバイジャン	263万3,000人
アルメニア	165万2,000人

世界銀行、数値は2018年。トルクメニスタンは2007年の時点で8,200人。

知る人ぞ知る国を旅したい—そういう人にぴったりなのが内陸アジア。各国が経済発展を続ける一方で、ウズベキスタンやジョージアのように多くの観光資源が豊富な国もあり、日本からの観光客の来訪にも期待が高まっている。

2



中央アジア  
カザフスタン  
Republic of Kazakhstan  
【カザフスタン共和国】

- 人口: 1,860万人
- 一人当たりGNI: 8,820ドル
- おもな言語: 国語がカザフ語、公用語はロシア語
- おもな宗教: イスラム教、ロシア正教
- おもな産業: 資源 (石油・天然ガス)、農業、冶金・金属加工



大草原の中に東京23区ほどの広さの街が広がるナルスルタン。

**黒川紀章さんが設計した首都**

1997年に遷都したカザフスタンの新首都の都市設計は、建築家の故・黒川紀章さんが担った。JICAの協力によるマスタープラン(基本設計)に沿って首都建設が進められ、アスタナからナルスルタンへと改名した首都には未来都市のような風景が広がっている。また、カザフスタンの企業がサポートする自転車ロードレースチームは世界屈指の強豪で、2012年のロンドン五輪では同国の選手が金メダルを獲得している。